

2018年
か ぜ ひ か

風光れ

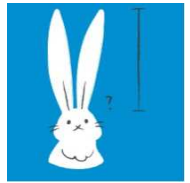
人権のたより 第4号 7月10日発行

三重県立津東高等学校

暑い日が続きますが、身体の調子はよろしいですか。

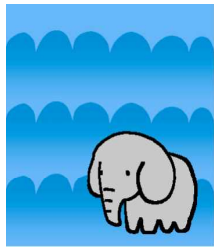
数日前のこと、知り合いの小学4年生に質問されました。

「ねえねえ、どうしてウサギの耳は長いの?」「えっ・・・わからない。調べるわ。」私は答えられませんでした。そこで、調べてみました。



ウサギは大きな耳でより多くの音を聞き取れるようにして、危険を察知しやすくしているのです。しかし、集音器の役目だけではなく、実は、ウサギの耳には、「**放熱**」するという**大切な役割**があったのです。早速、子どもに知らせました。

すると、ゾウの耳が大きいのも、体の温度、つまり体温を調節するためなんですね。アフリカゾウは、気温が27度をこえると耳を立てて、動かし始めます。32度をこえると、耳をしょっちゅう動かすようになるそうです。また、象には驚くべき能力があるのです。いわゆるテレパシーの能力です。動物たちにとっては、ごく当たり前のコミュニケーションの方法ですがとくに象は優れたものを持っているそうです。



象は、人間と同じように、年長者から数多くのことを学んでいるんです。年寄りのメス象は、いつ乾季が来るのか、そのときどこへ行けばいいのかなどを知っていて、群れを導いていくんです。だから、象牙密猟により、年寄りの象が数多く殺されると、そこで多くの知識が失われ、象の社会に致命的な混乱が起きるのです。風、音が**いのち**にきざまれていくのです。象の食欲にも驚きです。1日135キログラムもの植物を食べて、消化します。自然破壊のようだと思うかもしれませんが、実は正反対なのだそうです。長い目で見ると、彼らは森を草原に変え、草原をまた森に戻すという、自然の循環に大きな役割を果たしています。そのため象の消化システムは、食べたものの60%をわざわざそのまま外に出してしまうという、非常に非効率的なものになっているのです。象のお腹に入った種が、そのまま160キロメートル（津から神戸ぐらい）遠くに運ばれ、そこで草原や森に再生していきます。水飲み場からそう遠くないところに何百という象の死骸がありました。胃の植物の種が象の栄養を受けて、急速に育ち始めたのです。そこには、大きな大きな森が出来るのです。**いのち**ってつながりなんです。1992年の映画『地球交響曲・ガイアシンフォニー』第一番の内容です。

あなた達一人ひとり、自分自身を大切に、そしてあなたの大切な人、物を想うこと。それが**いのち**です。そう「**生き物としての自分、次に命をつなぐ存在としての私**」を感じ取ってください。いっばいっばいありがとう。

最後に『象は全てを知っている。それでもなお人間を愛している』

*ガイア① 《大地の意》ギリシャ神話で、最古の大地の女神。

② 地球。地球全体を一つの生命体と考える「ガイア理論」による語。 事典より